

大阪工業大学大学院

＜ロボティクス&デザイン工学研究科博士前期課程＞

2026年度第2回一般入試

解答例

ロボティクス&デザイン工学専攻

空間デザインコース

※小論文問題は志願者自身の研究計画・将来構想を問う設問の

ため、解答例の掲載は行っておりません

2026年度第2回大学院一般入試 解答例

ロボティクス&デザイン工学専攻空間デザインコース 博士前期課程 2026年度 第2回一般入学問題

専門科目試験（デザイン）問題用紙

次の設問のなかから、3問を選択し解答しなさい。解答にあたっては、解答用紙に問題番号を記入すること。

字数は、各問とも200字以上400字以内とする。

1、近代の建築家・デザイナーによる家具作品について作家とその作品を具体的に取り上げ、その特徴について述べよ。

【出題意図：作家・作品論】

インテリア系の研究を進めていくにあたり、具体的な建築家・デザイナーによる家具作品についての知識を問うことで、インテリアに関する修学意欲と分野への関心について評価することを意図している。

【解答例】

ヘリット・トーマス・リートフェルトは、近代のオランダの芸術運動であるデ・スタイルの代表的な建築家・デザイナーとして広く知られている。中でもレッド・アンド・ブルーチェアは、三原色と黒で塗装された、デ・スタイルの造形理念を三次元に昇華した木製の名作椅子として極めて高い評価を受け、現在でも名作家具として市販もされている。この椅子の特徴は、三原色に塗り分けていること以上に、椅子を構成する各部材が独立して宙に浮遊するような要素主義と称されるデザインとしてまとめられていることである。その構成に寄与しているのは構造となる角材相互の接合方法にある。接合する角材を相互に、その側面を直交して重ね合わせダボによって結合するシンプルな接合は、角材端部を微妙に突出させつつ断面が露出する効果をもたらす。このことが浮遊感のある造形の視覚的なイメージを生み出しており、本作品の極めて重要なデザインの特徴といえる。

(397字)

2、インテリアデザインの領域における学術的研究の問題・課題について、建築デザイン・プロダクトデザインとの領域との違いを踏まえて述べよ。

【出題意図：専門領域の理解】

本学のインテリア系における研究等の取り組みの特色への理解と、建築・プロダクトを横断的に扱う領域特有の広範な研究範囲に対する問題意識を確認した上で、適切かつ新規性のある研究テーマを設定する能力の有無について確認することを意図している。

【解答例】

インテリアとは、内部空間を構成する一般的な床・壁・天井といった建築的構成要素のみならず空間に内包される家具や照明の効果に加え、あらゆるプロダクト製品までを構成要素とする総合的な概念である。こうした広範な概念であるため、研究の対象も家具を含むプロダクトから具体的な建築作品の空間構成などに至るまで広く、研究領域として漠然としていることが課題として挙げられる。さらにこれまでの研究では、家具の配置・構成や色彩構成といった客観的な分析を試みるものもあるが、空間の雰囲気についての印象評価など、客観的かつ定量的な分析方法によるものが少ないことも課題として抱えている。ひとを中心とする、ひとにとってもっとも身近な総合的空間として、現在すでにある秀逸とされるインテリア空間の事例を工学的観点から客観的に読み解き、デザインの方法論として体系化していくことが、今後本領域に求められる研究課題と考えられる。

(393 字)

3、デザイン思考を用いた実践的取り組みが現代社会へもたらす影響・可能性について述べよ。

【出題意図:思考法の理解】

デザイン思考がデザインの本質的な理解である「ひと中心」のデザインが展開していくためのイノベティブな活動であることを理解し、デザイン思考がものづくりを超えた様々なジャンルにおいて有効な思考法であることへの理解とその重要性を確認することを意図している。

【解答例】

デザイン思考とは、問題の本質に迫り明らかにすることで、これまで着目されてこなかった新たな視点による発想で既存の枠組みにとらわれない創造的な具体的解決案を導き出す思考である。ハード面としてのものづくりに関連する領域に限られたことではなく、システムなどのソフト面、ビジネスモデルの構築など人の社会経済活動に関わるより広い領域において革新を起こすための有効な思考法でもある。価値観が多様化している現代社会において、これまでの思考によって構築されてきた価値基準による施策ではフォローしきれなかった状況に対する積極的な解決事例として、ジェンダーレスな公共トイレがある。都市部を中心に近年増加しているが、性差の境界を緩めることにより、これまでにない多様なデザインに結びつき利便性とともにより豊かな空間にまで展開されるようになりつつある。

以上の事例からも、デザイン思考は革新的な社会創造への寄与が大いに期待される。

(398 字)

4、家具作品とインテリア空間との密接な関係について、「素材と技術」という観点を踏まえ具体的な事例を用いて述べよ。

【出題意図:ものづくりと社会】

家具デザインはこれまで、新素材とその加工技術の確立によって、新たな価値を有するデザインが生み出されてきた。そうした素材と技術との関係についての理解を軸にしながら、空間と一体的に展開している事例について問うことで、素材・技術・空間がそれぞれ密接に結びついた取り組みであることへの理解を評価することを意図している。

【解答例】

戦後アメリカにおいて、プラスチックの一体成形の技術が家具作品に盛んに応用されてきた。中でもチャールズ・イームズによるシェルチェアは現代でも広く知られ、ダイニングチェアとして流通し一般的なカフェなどでも利用されている。シェルのような有機的なフォルムを効率的に造形するには、プラスチックの加工技術が必要かつ最適であり、その技術の確立が後の量産可能な工業製品として展開した。

また、イームズは工業製品を全面的に展開した自邸をデザインしている。自邸インテリアの居間には、シェルチェアの他にも、自身のデザインによる後に工業製品として展開していく複数の家具が随所に設けられている。内部空間の統一的なコーディネート観点によるデザインはもちろん、戦後に発展したプラスチック加工技術を含む工業製品による新たなライフスタイルが家具・空間とともに自邸としてパッケージされていることから、家具と空間の密接な関係が伺える。

(399字)

5、今日の商店街を含む商業施設の空きテナントや空き店舗のリノベーションの可能性について、具体的な例を挙げて述べよ。

【出題意図:近年の問題】

今日のインテリアデザインは、商業施設・店舗を中心に扱う領域であり、近年の商店街の衰退等の社会問題に対し、その解決策など具体的なデザインの方法とその事例についての知見を問う。問題の発見と独自の論理的な視点の構築によって空間デザインがなされていることへの理解及び自発的な問題確認能力について評価することを意図している。

【解答例】

大阪市北区にある中津商店街は、かつては近隣の住民達を中心に生活に密接した商いの場として賑わっていたが、近年ではその多くが空き店舗となっている。現在も残るかつてのレトロな看板の露出はアーケード空間に独特の雰囲気醸し出しており、近年では比較的若い世代を中心にそうした空間への価値を再発見しようとする動きがある。

建築設計事務所のスペーススペースは、この商店街の一角を自身の事務所としてリノベーションした。基礎部分を増し打ちして構造的な補強をし、外観は塗装を中心とした当時の面影を残すデザインであり、通り側の一階はガラス張りの面を多く設けて建築模型を外側に向け展示するなど、内部の活動の様子が伺える設えとしている。

通路沿いの屋外空間には、商店街やその近隣で行われる催しに参加できるようオリジナルにデザインした折りたたみ式の移動屋台が設置されており、小規模ながらも商店街活性化に向けた可能性が感じられる。

(398 字)